



## 慶応はじまる

今日はバレンタインデーであるが、同時に慶応大学商学部の入試日でもある。昨日が経済学部、明日が文学部で明後日が法学部、医学部は19日の日曜日。一番早いのが薬学部の10日で、理工学部もすでに12日に実施されている。

理系の医学部、薬学部、理工学部は英語＋数学＋理科（医学部は物理・化学・生物から2科目選択、理工学部は化学＋物理の2科目、薬学部は化学）が試験科目になっており、文系は英語＋地歴（日本史か世界史のどちらか、商学部だけは地理も選択可）＋小論文である。なお、経済学部と商学部は、地歴の代わりに数学で受験することも可能である。

\*

国語科では毎年国語科全体で小論文の添削指導を行っていて、3年生の授業担当者が主として東大、2年生の授業担当者がその他国立大学、そして、1年生の授業担当者が慶応の各学部を分担して受け持っている。ということで、今年は私は慶応大学・経済学部の小論文担当になって、二十数名の生徒諸君の添削を担当した（鬼塚先生は文学部担当）。上にも書いたように、数学でも受験できるため、理系の諸君も数名混じっていたが、さて昨日の結果はどうだったのだろうか…。

経済学部の場合、例年3000字弱くらいの課題文（かなり難しい）が与えられて、それを題材にしながら、60分で2問、合計600字書く問題が出されている。設問Aは設問に答えながら、その設問に合わせて簡潔に課題文を要約する問題。設問Bは、課題文を踏まえながら自分の考えを展開する問題で、ここ数

年は300字＋300字の構成になっているが、200字＋400字（考えに重点）の年もあるし、逆に400字＋200字（要約に重点）の年もある。要約だけ2問の年もあって、受験生の質が低下したから、意見を求めてもロクなものが出ず、それなら文章をちゃんと読めるかどうかを測った方がよいと判断したのではないかと、などと分析されていたが、ここ数年は意見を求める出題が続いている。

で、当然のことながら、まずは課題文を正確に読み取らないといけなわけだが、このあたりは3年生ともなるとほぼクリアできる段階になっている。その読み取ったものを、どう設問の答えに結びつけるか（どうやって時間内に、定められた字数内に納めるか…など）については、多少練習が必要な部分もあるが、何回か書いてみると、それなりのものが仕上げられるようになってくる。

ただし、設問Bで出題者を唸らせるような解答を書くのはなかなか難しい。課題文を踏まえることはもちろんなのだが、そこに自分なりの $+\alpha$ （新しい情報）、それも的確で説得力のある $+\alpha$ を付け加えるのは、そう簡単にはできないし、付け焼き刃の学習でできるようになるものではないからである。こういう時に、教養主義をうたう日比谷の教科学習が生きてくるわけで、直接受験に関係ないと思っていた科目の学習の積み重ねが、突然役に立ってきたりするのである。

同時に、幅広く社会に目を向けることも必要だ。日頃から、関心ある分野については、ニュースなどで見聞を広げたいものである。